

JARA 強化戦略策定タスクフォース(第2回)

議事要旨

(1) ヒアリング

選手①

- 日本チームとして何を目標しているのか。何をいつまでに目指すのか。今は選手個人に任されている状況。
- 日本はまだ選手の能力が高くないというのが現状。小艇種目を重点的に育てて選手の能力を高くしていくことが重要。
- 現在、選手個人がそれぞれのレベルに合わせた目標に向かってそれぞれで練習に取り組んでおり、チームとして相乗効果があるような状態ではない。2023年にオーストラリアチームと一緒に合宿した時に感じたのは、個人の能力で頑張ることにはやはり限界がある。そこに集まった選手、コーチ、スタッフ全員が同じ目標に向かってそれぞれの役割を果たすチームワークが重要だと感じた。
- 個人のレベルで見るとさほど高くない選手でも世界選手権やオリンピックでメダル獲得したりしている。日本では日本代表という場を借りて個人が頑張っている形だと強く感じた。
- 個人のその頑張る能力とか練習に耐える能力というのは、日本選手とオーストラリアや海外の選手の間で変わらない。個人の限界を超えるにはみんなで頑張ることが必要だと感じている。そのような雰囲気をつくるためには、目標が明確であること、身近に金メダルを取った選手やコーチといったロールモデルがいることである。
- 何らかのトレーニングを日本代表の練習としてこれからも続けていくべき。企業や大学等のチームに浸透させ、統一していく。高校から大学、その次、世界レベルという風に一本道が通るようなトレーニングの基準を作っていくべき。フランス式トレーニングを8~9年間やってきた実績があるのでそれを少しアレンジしてやっていくのが良いと考えている。
- 選考方法に関して、現在IDT%のみで選考しているが、選手の伸びしろも含めコーチの主観を入れた評価も必要。
- 練習環境は現状としては過不足ないと思う。個人的には戸田NTCはこれまで通りに使えると嬉しい。また今後もエギューベレットが使えるなら、とてもいい刺激があり、継続出来れば、すごく嬉しい。
- 所属チームと日本代表活動が衝突する場面が多い。練習内容や目標大会が違い、ピーキングを合わせることが難しく、国際大会で思うようにパフォーマンスが出ない。

選手②

- 自分自身は正直シングルスカルにこだわりたいという強い気持ちがあるわけではなく、例えばダブルやクォドで速いクルーが作れるのであれば挑戦したい。ただ、国内選考（SBS）で競うと自分と同じレベルの選手がいない。理想と現実の葛藤がある。
- 私は強化活動における日本の全体像をそこまで深く考えたことがなかった。女子のシングルスカルは各国のトップレベルの選手が出場するレベルの高い種目。メダルやファイナルを目指すとした時に、狙いやすい種目を分析して決めていくべき。
- 私はトレーニングに正解というものはないと思っている。そのトレーニングをいかに最大限にやりきれんかが強くなる秘訣ではないかと思う。
- オーストラリアではトレーニング強度が細かく指定されているが、日本ではアバウトな形で行われている。選手とコーチがトレーニングにおける目標や目的を共有することが大事ではないか。
- タレント発掘に関しては、若いうちから期待してはいけないと思う。オリンピック日本代表の2名の選手は大学から始めている。フィジカル要素が高い競技だからこそトレーニングに向き合う姿勢が重要である。
- PA 制度は、海外の選手から刺激をもらえる良いプログラムである。世界を目指したいと思う選手を増やすことに繋がる。
- 海の森水上競技場は、コースコンディションや利用時間の制限など解決すべき課題もある。また、戸田を活動拠点としている選手が多いことから、戸田のトレーニング環境を充実させることも必要。
- ナショナルコーチに関しては、選手を勝たせたいという気持ちの強いコーチにやっていただきたい。
- 欧州で W 杯を転戦する際に、エギュベレットを拠点として練習できるのは、ありがたい。毎回拠点がかわるよりは、同じ場所の方が落ち着く。食事チームが帯同してくれている。場所が変わったとしても、海外拠点は欲しい。

所属団体代表

- 私は基本的に、近年の JARA の活動は利害関係者から理解を得られる素晴らしい活動をされているというふうに思っている。JARA に期待することとして、ローイングファミリーを増やすことに取り組んでいただきたい。
- 強化はローイングファミリーを増やすための手段と考えた時に、強化活動における JARA と所属団体の役割分担や費用負担の在り方など、工夫する余地はある。
- シニアレベルでは国際大会スケジュールに合わせた国内スケジュールにするべき。例えば、国スポに年齢制限を設けることも考えられる。
- スモールボートは選手が指導者を選び、チームボートは JARA のもとに集まるとい

う方式にした方がよい。選手と共に指導者も成長していくようにすべき。

- 今後、JARA が費用負担する大会は JOC 派遣大会、世界選手権に絞るべき。第 1 戦から 3 戦までのワールドカップ、世界選手権の前にある大会は IDT 達成率をクリアしたクルーが参加して、世界選手権の派遣クルーを決めるのが良いのではないか。

(2) ヒアリングを受けての意見交換

- 国内大会スケジュールは本質的な話。国スポのスケジュールが世界選手権に向けたロードマップと重なることによって、代表活動を辞退する理由となっている。
- 国スポは三巡目の見直しに向けて、トップアスリートが出場できるように開催時期や開催場所を柔軟に考えていくという動きがある。三巡目を待たずとも、JARA がどう考えていくかが重要。
- 戸田 NTC は、練習時間の確保の点などの問題もあることから、せめてトレーニング機器だけでも整備することも考えた方がよいのでは。
- 中学生から強度の高いトレーニングをやらせると心の成長が追い付かず、脱落してしまうというような表現をしていた。中学生はやはり早すぎるという印象を受けた。
- 去年のパリオリンピックに出た選手のうち 2 名は大学生から、軽量級男子ダブルスカルの 2 名は中学生から始めた選手である。育成の計画において、(中学から始めた)二人の選手がなぜ長く続けられたのかという点も見ていきたい。
- 総括の中では、今の取組を継続した方が良いという点もあった。イギリスのタレント発掘では、ジュニア層を対象としているプログラムの中で NF がクラブに人を派遣するなどしている。
- 我々はジュニアだけをやっているわけではない。当然トップ層もやろうとしているが、日本のタレント発掘の中ではなかなかフィットしてないというのが現状。
- これまでジュニア世代にかなりの投資をしてきた。実際その費用対効果を考えると非常に寂しいものがあり、完全に失敗しているのではないかという見方もある。中学高校大学のパスウェイを充分考慮してジュニア育成を考える必要がある。
- トレーニング方法については、これまですぐに結果を求めすぎていた。少し失敗したら見直すといったことの繰り返しだった。強化に対する信念、骨太なところが欠けているのではないか。今回のタスクフォースでは特定のトレーニングとかそういうところではなく、未来をしっかりと組み立てていこうとする考え方が重要。
- これまで日本のチーム力はどこまで重視されてきたのか。今後考えていくべきテーマである。
- 個のパフォーマンスが重要である一方、国内には個の高い強い選手が少ない。理想と現実のギャップがある中で、このギャップをどう埋めていくのか、今の状況の中でどう強化していくのか。まずはここに立ち返って戦略を考えていく必要がある。
- タスクフォースでは、現状に対する認識を合わせることが大事。

(3) 第3回に向けて（各委員会からの報告及び提案など）

- 第1回 TF にて、医科学委員会から提案があったが、各委員会において課題に対する提案があれば、次回発表していただきたい。

(4) アンケートの実施について

- JARA 事務局、広報より、各県ポへのメール発信、ホームページや SNS 掲載等、複数のチャンネルを通して広くアンケートを依頼する予定である。